

外国の国名、地名、人名の書き方

- 1 外国（中国・朝鮮を除く）の国名、地名、人名は、原則として、その国の発音によってカタカナで書く。
〔例〕ベネチア（英語読みのベニスは使わない）
ゴッホ（英語読みのゴーは使わない）
ただし、慣用の固定しているものは、それに従う。
〔例〕イギリス ギリシャ ブカレスト（慣用、現地の呼称はブクレシュチ） ベートーベン（現地読みではベートーフェン）
- 2 中国、朝鮮の国名、地名、人名は、原則として原表記の漢字で書く（北朝鮮は漢字を廃止したが、これまでの例に従う。中国の簡体字はその字に対応する日本の漢字に改める。常用漢字は常用漢字の字体を使う）。
〔例〕北京 釜山 平壤 張勉 金正日 毛沢東（毛泽东）
ただし、中国辺境の地名で、漢字を当て字に使っているもの、中国語の方言による呼称が慣用されている華南の地名はカタカナで書く。
〔例〕チベット ハルビン フフホト アモイ スワトー マカオ
また韓国、北朝鮮で、当てはめる漢字がないときや明示されないときは、現地音をカタカナで書く。
〔例〕朴セリ ペ・ヨンジュン
- 3 次のようなものは漢字を使わずカッコ内を使う。
〔例〕和蘭（オランダ） 印度（インド） 紐育（ニューヨーク） 基督（キリスト）
〔注〕ヨーロッパ、ラテンアメリカは原則として欧州、中南米とし、米国、英国、豪州も使ってよい。
- 4 難しい漢字を含む地名、人名には読み仮名を付ける。中国、台湾関係は、日本語読みを平仮名で示す。韓国、北朝鮮関係は、現地音読みをカタカナで付ける。ただし、中国、台湾関係で著名と認められる人名には、漢字の難易にかかわらず現地音読みをカタカナで付ける。

■国名・地名

- 1 国名のうち次の略称は使ってもよい。ただし、2国以上の国名を列記する場合や形容詞的に使う場合以外は、カッコ内のように書き表すことが望ましい。
米（アメリカ）、加（カナダ）、英（イギリス）、仏（フランス）、独（ドイツ）、伊（イタリア）、露（ロシア）、豪（オーストラリア）、中（中国）、朝（北朝鮮）、韓（韓国）、越（ベトナム）、比（フィリピン）、印（インド）
〔例〕日米 英米仏 仏議会 駐英大使 日露交渉 中越国境
〔注〕オランダ（蘭）、オーストリア（奥）、ブラジル（伯）の漢字略称は使用しない。
- 2 州・市・山・川・島・湾などの地名は、必要に応じて日本語をつける。その他は、慣用が固定しているものを除き、できるだけ日本語に訳さない。
〔例〕イリノイ州（State of Illinois） メキシコ市（Mexico City）
テムズ川（River Thames） クイーンエリザベス諸島（エリザベス女王諸島） ノースウェスト準州（北西地方）
〔注〕慣用が固定している地名の例 地中海、北海、黒海、紅海、太平洋、大西洋、北極海、南極海など。
- 3 2語以上から成る地名でも原則として「・」を使わずに表記する。
〔例〕New York ニューヨーク Dar es Salaam ダルエスサラーム
〔例外〕Bosnia and Herzegovina ボスニア・ヘルツェゴビナ
Sri Jayawardenepura Kotte スリジャヤワルデネプラ・コッテ（スリランカ）

■人 名

- 1 代表的なファーストネームとファミリーネームを使用し、ミドルネームなどは原則として省く。
- 2 ファーストネーム、ファミリーネームを重ねて書くときは、その間に「・」を入れる。
〔例〕アーネスト・ヘミングウェイ（Ernest Hemingway）

- 3 スペイン系では、自分の名の下に父方、母方の姓を重ねて書くので、略して書く場合は父方の姓だけを書く。ただし、本人が母方の姓を名乗っている場合は、この限りでない。
〔例〕ホセ（自分）・ミロ（父方）・カルドナ（母方）首相
→ミロ首相
- 4 中国、朝鮮、インドシナなど、姓を名の前に書くことが一般に知られているところ以外では、姓（ファミリーネーム）を最後に書く。
〔注〕ハンガリーでは姓名の順に書くが、このようなところでも姓を最後に書く。フェレンツ・モルナール（本来は、Molnár Ferenc）
- 5 頭文字（イニシャル）は原則としてローマ字で書く。
〔例〕E・M・アーモンド（E.M.Almond）少将
- 6 名前を省略するときでも、二つのファミリーネームを持った人は二つとも書く。
〔例〕（デービッド）ロイドジョージ（David Lloyd Georgeで、LloydもGeorgeもファミリーネームだから、ただジョージとするのは誤り）
- 7 姓または名が複数の語から成っている場合、「・」や「=」で区切らず、続けて表記する。
〔例〕カミーユ・サンサーンス（Camille Saint-Saëns）
クロード・レビストロース（Claude Lévi-Strauss）
ジャンポール・サルトル（Jean-Paul Sartre）
- 8 イギリスの「サー」の称号は、ファーストネームにつける。「サー」は個人に対して与えられるもので、姓を略することができる。この場合は「氏」「さん」などの敬称はつけない。
〔例〕サー・ウィンストン・チャーチル Sir Winston Churchill
（またはサー・ウィンストン。サー・チャーチルとするのは誤り）
- 9 「サー」は敬称だが、下に官職名をつけても差し支えない。
〔例〕サー・ロバート・クレーギー大使
- 10 イギリスの「ロード」の称号のある人には、敬称として「卿」をつける。

- 〔例〕元駐米大使ハリファクス卿 Lord Halifax
- 11 ミャンマー人の名前につく「ウ」は敬称に当たるが、従来の慣習により敬称の「氏」をつける。
〔例〕ウ・ソー氏 U.Saw
 - 12 ベトナム人の姓名は通常三つの部分からなっている。上から氏族、家、個人の名とされているので、記事初出のフルネームは中点を入れて三つに切る。2度目以降、あるいは見出し等で略称を使うときは、最後の個人名を使う。
〔例〕グエン・タン・ズン首相 ズン首相

■外国地名・人名 カタカナ表記の注意点

- 1 「ヂ」「ヅ」「キ」「エ」「ヲ」および「ヴ」の文字は使わない。V音の表記には「ヴ」の代わりに、B音またはW音を使う。
〔例〕Moskva モスクワ Vatican バチカン
Zygmund ジグムント Vivaldi ビバルディ
- 2 「イエ」の表記は用いない。「イエ」は「イエ」または「エ」と書く。
〔例〕Yemen イエメン Yellowstone イエローストン
Jerusalem エルサレム
- 3 t, dは「ト」「ド」と、tu, du, tou, douは「トゥ（デュ）」「ドゥ（デュ）」と書く。ただし、慣用が固定したものは「ト」「ツ」「チュ」「ド」「ズ」「ジュ」と書く。
〔例〕Tbilisi トビリシ Dnepr（川）ドニエプル
Toulouse トゥールーズ Dushanbe ドウシャンベ
Düsseldorf デュッセルドルフ
- 〔例外〕Katmandu カトマンズ Tunis チュニス
- 4 「クァ」「クイ」「クェ」「クォ」は「クア」「クイ」「クエ」「クオ」と書く。また、「グァ」「グイ」「グェ」「グォ」は「グア」「グイ」「グエ」「グオ」と書く。
〔例〕Quang Ngai クアンガイ Nicaragua ニカラグア
- 5 「ジェ」の音は、「ジェ」と書く。ただし、慣用の固定したものは「ゼ」と書く。
〔例〕Niger ニジェール Algeria アルジェリア

〔例外〕Magellan(海峡) マゼラン Los Angeles ロサンゼルス
6 「ティ」「ディ」の音は、原則として「ティ」「ディ」と書く。
ただし、慣用の固定しているものは「チ」「ジ」と書く。

〔例〕Atlantic City アトランティックシティー

〔例外〕Argentina アルゼンチン Edison エジソン

7 「ウィ」「ウェ」「ウォ」の音は「ウィ」「ウェ」「ウォ」と書く。

〔例〕Wisconsin ウィスコンシン Wellington ウェリントン

Warhol ウォーホル

8 はねる音「ン」、つまる音「ッ」、のばす音「ー」は、はっきりしたもの以外はできるだけ省略する。

〔例〕Peloponnesos ペロポネソス Philippines フィリピン

Yemen イエメン

9 長音は長音符号「ー」で示し、母音字を重ねたり、「ウ」を用いたりしない。

〔例〕Ghana ガーナ Roma ローマ

10 二重母音「エイ」「オウ」は、原則として長音符号で表す。

〔例〕Adelaide アデレード Baker ベーカー

〔例外〕Marseille マルセイユ

11 おもな外国語別の発音と書き方の原則は次の通り。

▽英語

1 語末の (i) a は「ア」と書く。また、語末の (y) a の、その前が子音のときは「ア」と書く。

〔例〕Australia オーストラリア California カリフォルニア

Kenya ケニア

〔例外〕Persia ペルシャ

2 語末の ley は「リー」と書く。

〔例〕McKinley マッキンリー

〔例外〕Death Valley デスバレー

▽ドイツ語

1 語頭の St, Sp の S は「シュ」と書く。

〔例〕Steiner シュタイナー Spandau シュパンダウ

2 語末の nach, bach は「ナハ」「バハ」と書く。

〔例〕Eisenach アイゼナハ Sulzbach ズルツバハ

〔例外〕Bach バッハ

3 語末の berg, burg の g は「ク」、ng の g は「グ」、ig の g は「ヒ」と書く。

〔例〕Heidelberg ハイデルベルク Hamburg ハンブルク

Schelling シェリング Leipzig ライプチヒ

4 語末の d は「ト」と書く。

〔例〕Rheinland ラインラント

5 語頭の W は、「ワ」「ウィ」「ウ」「ウェ」「ウォ」と書く。

〔例〕Weimar ワイマール Wien ウィーン

〔例外〕Wuppertal ブッパータール

Württemberg ビュルテンベルク

6 語末の er は「アー」と書く。

〔例〕Hannover ハノーバー Schiller シラー

〔例外〕Oder (川) オーデル

▽フランス語

1 oi は「オワ」と書く。

〔例〕Poitiers ポワチエ Loire (川) ロワール

2 語末の bourg は「ブール」と書く。

〔例〕Cherbourg シェルブール Strasbourg ストラスブール

3 eille は「エイユ」、ailles は「アイユ」と書く。

〔例〕Marseille マルセイユ Versailles ベルサイユ

4 語末の gne は「ニュ」、ne は「ヌ」、nnes は「ンヌ」と書く。

〔例〕Montaigne モンテーニュ Seine (川) セーヌ

Cannes カンヌ

▽イタリア語

1 gna は「ニャ」と書く。

〔例〕Bologna ボローニャ

2 母音に挟まれた s の多くは濁音で書く。

〔例〕Vesuvio (山) ベズビオ Siracusa シラクサー

〔例外〕Pisa ピサ

3 glia は「リャ」と書く。

〔例〕Cagliari カリヤリ

4 cia, ciu, cio は「チャ」「チュ」「チョ」と書き、gia, giu, gio は

「ジャ」「ジュ」「ジョ」と書く。

〔例〕Ciano チャノ Giorgio ジョルジョ

▽スペイン語

1 ll は「リャ」「リュ」「リョ」のように書く。ただし、「ジャ」「ジュ」「ジョ」(主に中南米)、「ヤ」「ユ」「ヨ」のように書くことがある。

〔例〕Castilla カステイーリャ Rio Gallegos リオガジェゴス Mallorca マヨルカ

〔例外〕Sevilla セビリア

2 j は「ハ」行音で書く。

〔例〕Ojos del Salado (山) オホスデルサラド

3 jua は「ファ」と書く。

〔例〕San Juan サンフアン

4 h は無音として扱う。

〔例〕Anáhuac(高原)アナワク Hispaniola(島)イスパニョーラ

〔例外〕Habana ハバナ Alhambra アルハンブラ

5 qui は「キ」、que は「ケ」と書く。

〔例〕Iquitos イキトス Iquique イキケ

6 gua は「グア」と書く。

〔例〕Uruguay ウルグアイ Guayaquil グアヤキル

▽ロシア語

1 vsk などの v および語末の v は「フ」と書く。

〔例〕Khabarovsk ハバロフスク Khar'kov ハリコフ

2 v は原則としてバ行音で書くが、語頭の V に子音が続くときは「ウ」と書く。

〔例〕Valdai (丘陵)バルダイ Vladimir ウラジーミル

〔例外〕Moskva モスクワ Ivanovo イワノボ

3 軟音符号「'」は「イ」のように扱って書く。

〔例〕Arkhangel'sk アルハンゲリスク Kazan' カザニ

▽その他

アフリカの地名で語頭にくるはねる音「ン」は「ヌ」と書く。

〔例〕N'Djamena ヌジャメナ

*頭部の◎印は国名または特定行政区画、○印は首都名またはその地域の代表都市であることを示す。

*カッコ内には国名、所属地域、旧称など、実用上、必要な注を付けた。

*中国、朝鮮の地名は、特殊な数例を除き、50音順一覧には掲げていない。

(ア)

アーヘン (ドイツ)

◎アイスランド (大西洋北部)

アイゼナハ (ドイツ)

アイセル湖 (オランダ)

◎アイルランド (ヨーロッパ)

アイントホーフェン (オランダ)

アウクスブルク (ドイツ)

アウシュビッツ (現オシフィエ
ンチム) (ポーランド)

アカバ (ヨルダン)

アカプルコ (メキシコ)

○アクラ (ガーナ)

○アシガバート (トルクメニスタ
ン)

アシャンティ (ガーナ)

○アスタナ (カザフスタン)

アストラハニ (ロシア)

○アスマラ (エリトリア)

アスワン (エジプト)

○アスンシオン (パラグアイ)

アスンシオン島 (北マリアナ諸
島)

◎アゼルバイジャン (アジア)

アセンション島 (大西洋中部＝
英領)

アレス諸島 (北大西洋＝ポル
トガル領)

アダナ (トルコ)

アチン (特別州) (インドネシア)

アックム (インド)

アック島 (アラスカ)

○アディスアベバ (エチオピア)

○アテネ (ギリシャ)

アデレード (オーストラリア)

アデン (イエメン)

アトバラ (スーダン)

アトラス山脈 (アフリカ北部)

アナバ (アルジェリア)

アバメン (イラン)

アバディーン (イギリス)

○アバルア (クック諸島)

○アピア (サモア)

アビジャン (コートジボワール)

アビニョン (フランス)

◎アフガニスタン (アジア)

○アブジャ (ナイジェリア)

アブシンベル (エジプト)

○アブダビ (アラブ首長国連邦)

アブムサ島 (イラン・アラブ首
長国連邦)

アフワズ (イラン)

○アムステルダム (オランダ)

アムリツァル (インド)

◎アメリカ (北アメリカ)

アモイ (中国南部沿岸)

アユタヤ (タイ)

カタカナ語の書き方・使い方

読みやすく、分かりやすい記事のためには、カタカナ語を乱用せず、適切に使うようにしなければならない。難しいカタカナ語は言い換え、説明付与を積極的に行う。定着したとみられるカタカナ語も、できるだけ対応する日本語を使用することとし、やむを得ず用いる際には、表記の混乱を避けるため、以下に定められた書き方に統一する。

ここでいうカタカナ語とは、古来、中国語から取り入れられた漢語を除く外来語、特に明治以降、欧米語から入って、カタカナで表記される語を指す。欧米系の外来語でも、古くから日本で使われていて、すでに外来語であるという意識が希薄になったもの（「たばこ」「きせる」「かっぱ」など）は除外し、表記も平仮名にする。

■3種類のカタカナ語と使い方

- 1 すでに国語として熟しているが、なお外来語という感じが残っているもの
セーター ラジオ
- 2 外国語という感じをなお多分にとどめているもの
オーソリティー フィアンセ ガイドライン
- 3 欧米系の外来語をもとに日本で独自に作られ、使われている、一般に和製英語（和製語）と呼ばれるもの
アルバイト マイホーム デイサービス

1はそのまま使用してもかまわない。注意しなければならないのは、2に分類されるカタカナ語である。特に、使われるようになってから日が浅い、一般的に認知度・理解度が低いものについては、そのまま用いることはしない。3の和製語は、日本人にはなじみがあり、理解しやすいものが多いが、実際の英語として通用しないという観点から避けるべきだとの考えもあり、慎重に取り扱う。

■カタカナ語処理の3原則

- 1 言い換える
日本語に置き換えて意味の伝達に支障がない場合は、カタカナ語を使わない。
- 2 注釈を付ける
今まで日本になかった新しい概念や制度などを表すカタカナ語で、適当な言い換えが難しいものは、カタカナ語の後にカッコを付け、注釈を入れる。記事の中心となる語は、用語解説の「クリップ」など別項を立て、詳しく説明するのもよい。
- 3 文章の中で説明する
カタカナ語の前に、その語の内容を説明する修飾語を付ける。

■カタカナ語表記の基準

- 1 「キ、エ、ヲ、ヂ、ヅ」は使わない。
- 2 「ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォ、ヴェ」は使わず、「バ、ビ、ブ、ベ、ボ、ビュ」を用いる。
バイオリン アクティブ ベール ボーカル レビュー
- 3 「クァ、クイ、クェ、クォ、グァ」は使わず、「カ、キ、ケ、コ、ガ」または「クア、クイ、クエ、クオ、グア」を用いる。
スカッシュ キルティング イコール クイーン
スクエア クォーター グアバ〔例外〕クォーク
- 4 「イエ」は使わず、「イエ」または「エ」を用いる。
イエロー エール
- 5 「ツイ」は使わず、「ツイ」を用いる。
ツイード ツイスト
- 6 原音で「ティ、ディ、テュ、デュ」の音は、慣用の固定しているものを除き、「テイ、デイ、テュ、デュ」を用いる。
パーティー カーディガン プロデューサー
〔例外〕モチーフ スタジオ チューブ ジュース
- 7 原音で「ウィ、ウェ、ウォ」の音は、慣用の固定しているものを除き、「ワイ、ウェ、ウォ」を用いる。
ウィーク ウェア ウォーター ウォッチ

- 〔例外〕ウイスキー ウェルター級
 *「ウ」を省く慣用のあるものはそれに従う。
 サンドイッチ スイッチ スイング
- 8 原音で「ウェイ」の音は、慣用の固定しているものを除き、「ウェー」を用いる。
 ウェート ウェーブ ハイウェー 〔例外〕ウエスト(胴回り)
- 9 原音で「シェ、ジェ」の音は、慣用の固定しているものを除き、「シェ、ジェ」を用いる。
 シェパード エージェント ジェントルマン
 〔例外〕ミルクセーキ エンゼル ゼリー
- 10 原音で「トゥ、ドゥ」の音は、①慣用の固定しているものを中心に「ト、ド」または「ツ、ズ」で表し、②それ以外は「トゥ、ドゥ」を用いる。
 ①トレーナー ドライバー ツーリスト ズック
 ②アップトゥーデート タトゥー ドゥーイット
- 11 原語で二重母音の「エイ、オウ」は、①長音での慣用が固定しているものを中心に長音符号「ー」で表し、②それ以外は「エイ、オウ」を用いる。
 ①デート ディスプレー ウィンドー オーナー
 ②メイン ブレイク ボウリング(球技) ボウル(深鉢)
- 12 はねる音「ン」、つまる音「ッ」は、原音ではっきりしているもののほかは省略する。ただし、入れる慣用が固定しているものはそれに従う。
 イニング サマータイム スパゲティ ファクス・ロケット
 〔例外〕チャンネル ハンマー アットホーム アプリケーション
- 13 伸ばす音は長音符号「ー」で表し、母音字を重ねたり、「ウ」を用いたりしない。
 ボーリング(掘削) ボール(球)
- 14 原語(とくに英語)の語尾-er、-or、-arなどは、長音符号「ー」を用いるのを原則とする。
 オブザーバー ドクター レギュラー
 〔例外〕エンジニア ギア ジュニア
- 15 原語の語尾の-yは、原則として長音符号「ー」を用いる。

- アカデミー カントリー
 〔例外〕サンクチュアリ パセリ ホームステイ
- 16 イ列、エ列の音の次の「ア」は、「ヤ」でなく「ア」を用いる。
 アカシア カナリア スペア
 〔例外〕カシミア ダイヤル ロイヤルティ
- 17 語尾の「-um」は、なるべく「ウム」と書く。特に、元素名はすべて「ウム」と書く。
 アルミニウム サナトリウム シンポジウム
 〔例外〕コロシウム スタジアム ミュージウム
- 18 語尾が「-ture」の語は、原則として、「チャー」と書く。
 カルチャー ジェスチャー フィーチャー
 〔例外〕カリカチュア ミニチュア
- 19 英語のつづりXにあたるものは、以下の慣用に従って書く。
 「クサ、クシ、クス、クソ」と書くもの
 エクササイズ ボクシング ワックス サクソフォン
 「キサ、キシ、キス、キソ」と書くもの
 ミキサー タキシード エキストラ
- 20 英語のつづりFにあたるものは、慣用が固定しているものを除き、「ファ、フィ、フェ、フォ、フュ」を用いる。
 ファン フィルム フェルト フォーム フェージョン
 〔例外〕ウェハー モルヒネ プラットホーム ヒューズ
- 21 2語から成る複合語には、長くて読みにくい場合を除き、語間に「・」を付けない。3語以上から成る複合語には、原則として語間に「・」を付ける。ただし、それぞれの語の独立性が希薄で、読みにくくない場合には「・」を省略してよい。
 ウォーミングアップ ケース・パイ・ケース
 〔例外〕インフォームド・コンセント ホールインワン
- 22 カタカナの地名、人名などの固有名詞と、一般カタカナ語とが複合する場合は、その間に「・」を付けて区別を付ける。ただし、固有名詞としての意識がすでに薄れている語は、この限りではない。
 ウルグアイ・ラウンド ノーモア・ヒロシマ
 〔例外〕ディーゼルエンジン デビスカップ